

大覚寺宮は真言宗にして、仏殿には五大尊を本尊とす、弘法大師の作り給ふとなり。開基は恒寂法師。〔淳和帝第三の皇子なり〕代々法親王御住職し給ふなり。〔嵯峨天皇の故宮を精舎として大覚寺と号す、三代実録に見えたり〕菖蒲谷といふは大覚寺の北にあり。〔小松中将惟盛卿の君達六代御前北の方姫君など、此ところに忍んであはせし所なり〕八角堂は大沢の西にあり、後宇多院の陵なり。〔内に五輪の石塔あり、昔は堂の形八角なり、今も其名を呼ぶ〕相沢池〔広沢大沢の中にあり〕長刀坂〔其北にあり〕僧正遍照の旧跡〔此ほとりにあるよし、古書に見えたり〕

新続古 夕暮は秋のさかの、鹿のねに山もと深き露ぞこぼる、

忠

定